



□ 新河岸の河岸場跡付近

新河岸川の舟運は、江戸と川越を結ぶ重要な物資輸送路として、江戸時代初期に開設された。旭橋を中心とした上・下新河岸、扇河岸、牛子河岸、寺尾河岸は川越5河岸と呼ばれ、最盛期には30軒の河岸問屋を数えたといわれる。これらの開設にはいずれも川越藩が深く関係しており、江戸と川越を結ぶ輸送路の確保をいかに重要視していたかが分かる。現在は、明治3年造の伊勢安の店構えや周辺にいくつか残る倉庫蔵に、往時の景観をしのぶことができる。

